

# 平成28年度 アドバイザー確認結果(ふっ素について)

樋口先生	大嶺先生	梶山先生	小野先生	大東先生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・内陸の処分場で、ふっ素の事例はあまり聞かない。</li> <li>・RD処分場においても、自然由来等の可能性は考えられる。</li> <li>・コン殻については、これまで一般的に再生資材として活用されており、特にふっ素が出てきたと言う話はきかない。特に問題はないと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人為由来で基準値をこえる場合は、もっと高濃度である。</li> <li>・選別土からふっ素が出ているが、濃度的には自然由来のバラつきの範囲内である。</li> <li>・コン殻だけでなく、埋土の可能性も考えられるが、特定するのは困難である。</li> <li>・そもそも土壤環境基準程度のふっ素は、一般にどこで出てもおかしくはない。</li> <li>・再生資材は土木で広く使用されており、リサイクル推進の観点からも重要である。</li> <li>・震災・災害廃棄物のコン殻でも埋戻材として利用されており、埋め戻しについて問題はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・処分場においてふっ素が基準値をこえる事例はあまり聞かない。</li> <li>・ガラス工場の土壤汚染の事例ではフッ酸やフッ化ナトリウム等が原因だった。コン殻に由来するかどうかは分からない。</li> <li>・再生資材の埋め戻しについて、県の方針は理解した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふっ素はどここの処分場や不法投棄場所でも検出されるわけではないが、検出される場所もある。</li> <li>・周辺の土壤の組合せにもよるため、処分場の土質によって検出状況は異なる。</li> <li>・ふっ素、ほう素汚染は古いコン殻の溶出試験で検出されることがあるが、近年では、セメントから溶出しないように材料等を調整しているため検出されない。</li> <li>・ガラス関係によるふっ素汚染は、工場での事例があるが、濃度的には桁違いに高くなる。</li> <li>・掘削ズリ等を含め一般的に、大きなものよりも細かいものの方が表面積が大きくなり、溶出し易くなるため、特に50mmアンダーの選別土は今までどおりしっかりと分析して確認すること。</li> <li>・ふっ素は洗い出し効果が大きい物質であり、洗い出しが継続すれば溶出しても短期間と考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物土は、いろいろな物が混ざった状態なので原因を特定することは難しい。問題の無いところでもこの程度の値が出る場合もある。</li> <li>・化学薬品等を使用しているところであれば、もっと高濃度で検出されるであろうが、基準を若干超えた程度で自然由来の可能性が大きいのではないか。</li> <li>・この程度の濃度なら、コンクリートなどの要因も否定できないが、自然由来が主な要因ではないか。</li> <li>・一般にコン殻は再生利用されており、埋め戻しについては問題はない。</li> <li>・なお、地下水のpHが高いと溶出し易くなる場合もあるため、pHには注意しておいた方がよい。</li> </ul>